

# 違い、その美しさ



さい せん か  
崔 仙花  
出身 中国  
職業等 主婦  
在日期間 5年7ヶ月

皆さん、こんにちは。

私は、5年前、中国から日本にお嫁に来ました。憧れていた日本に来て、間もなくこの茨城の地で結婚生活が始まりました。いきなり実際の生活に飛び込んだ感じだったので、最初は本当に文化と生活習慣の違いに戸惑うことばかりでした。

日本では、食事をするとき、箸を横に置きます。おかずは1人分ずつの焼き魚とかサラダが並びます。お茶碗は持って食べますね。ところが、今まで私の習慣からすれば、スプーンと箸はペアで縦に置きます。おかずは1つの皿からみんなが取って食べます。お茶碗は食卓の上に置いたままスプーンで食べます。細かい一つ一つの違いが自分自身に影響を与えていました。

旦那が、日本ではこうしたらだめ、日本ではこんな食べ方はしないというように日本と中国を割り切って言われるときが一番寂しいときでした。心と心の間の壁をそのまま感じさせる言葉だったのです。今となっては、愛に基づいた家庭国際会議を毎日のように続けてきた結果、旦那がもっと国際的な思いを持つようになりました。

国や地域の文化の違いを認めずに否定するのを耳にすると、視野が狭いなと言います。世界中にいる60億人の中でも全く同じ人間はいないように、皮膚から性格、生活習慣の違いがあります。

山と溪谷があって、海と大地があるからこそ、大自然はいつも美しく、癒されることになるのですね。

花がきれいに見えるのは、いろいろな色があって、花と色違いの葉っぱが際立たせているからでしょう。

しかし、いつも見ている周りの環境からも、違うものは美しいと感じているはずなのに、否定したり批判したりしています。そして、心の余裕を失ってしまうときがありますね。

私には2歳になる長女がいて、今、妊娠8カ月です。将来、子どもが大きくなって学校に行くことを考えると、正直、いじめの問題も心配です。なんで君の親は日本人じゃないの？というところからいじめが発生します。

子どもは愛の学校である家庭でいろいろなことを学びます。親が平和な思いを持って愛をいっぱい注いで育てられた子どもは、愛を与え、受けることは本当に幸せなことだと実感できるようになります。そうすれば、人を傷つけたり悲しませたりすることはできないでしょう。

1人の男性と1人の女性が家庭を築き、一つ一つの家庭が社会を形成し、その社会が世界につながっていきます。個人から世界まで、そのレベルこそ違いがありますが、その違いは間違っているのではなく、調和の美をなし、逆に楽しめる要素になり得ます。

私の子どもは日本人でもなく中国人でもありません。既に国境の壁を乗り越えた国際人です。恥のない国際人の親として頑張りたいと思います。もちろん、国際的意識の高い皆様の協力なしには無理な話です。

皆様のご家族の健康と幸せをお祈りしながら、私のスピーチを終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。